

大崎城社

大崎城は大崎八幡社（はちまんしゃ）と龍源院（りゅうげんいん）にかけての台地に建てられたと思われる。豊橋平安寮（とよはしへいあんりょう）の裏（うら）にあたる。

自然の地形を考えて建てられた城であった。北、西は三河湾（みかわわん）の波がうち寄せる急ながけで、南西部だけが、台地に続く大切な地点だった。



各曲輪（かくくるわ）（区画のこと）は土塁（土をもりあげて築いたとりで）を巡（めぐ）らせていたが、南東の一カ所だけを入り口にしていた。出入り口か土橋をかけて外に通じていた。

言い伝えによると、土橋を挟んで北東の堀を「杉山堀」（内堀）、南西を「谷熊堀」（外堀）といっている。その名は、戸田氏の領下にあった杉山と谷熊の領民に掘らせたからと伝えられている。

初代大崎城主は戸田宣成である。今橋城（のちの吉田城）を守る戸田宣成を今川氏親が追い出したため、大崎城に移ってきた。大崎城築城は1499～1518年の間である。



〈参考資料

『豊橋校区史 37 大崎』